

地域の健康情報の拠点としての 薬局の機能

名城大学薬学部
長谷川洋一

平成26年度厚生労働科学研究費補助金
(医薬品・医療機器等レギュラトリーサイエンス総合研究事業)

薬剤師が担う
チーム医療と
地域医療の調査と
アウトカムの評価研究 **シンポジウム**



日時

2月22日(日)
13:00~16:30

会場

日本薬学会
長井記念ホール

本日の内容

1. 昨年度までの経過について
2. 薬局における健康情報の提供状況等に関する実態調査について
3. 健康情報拠点として薬局に求められる機能について

本日の内容

1. 昨年度までの経過について
2. 薬局における健康情報の提供状況等に関する実態調査について
3. 健康情報拠点として薬局に求められる機能について

薬剤師が担うチーム医療と地域医療の調査とアウトカムの評価研究 在宅医療・かかりつけ薬局推進班の概要

平成25年度厚生労働科学研究費補助金
医薬品・医療機器等レギュラトリーサイエンス研究事業

研究代表者：東京医科歯科大学大学院医歯学総合研究科 安原真人
在宅医療・かかりつけ薬局推進班分担研究者：

北里大学 薬学部 吉山友二（初年度）
名城大学 薬学部 長谷川洋一（2年度）

研究目的：地域において在宅医療を提供する薬局薬剤師が、地域医療・地域保健に積極的に関与するための基準を策定することで、薬局が在宅医療を推進しつつ、本来のかかりつけ薬局機能を十分発揮できるようにすることである。

初年度の事業：「かかりつけ薬局機能をもった在宅医療提供薬局」を推進するための新たな基準を作成し、その妥当性を評価することとし、平成26年1月に「薬局の求められる機能とあるべき姿」の報告書を公表した。

2年度の事業：「薬局の求められる機能とあるべき姿」の報告書に基づき、在宅医療を含めた地域包括ケアシステムの中でセルフメディケーションの推進に資する薬局のあり方について、調査検討する。

「薬局の求められる機能とあるべき姿」の公表について

- 近年の社会情勢の変化を踏まえた望ましい形のかかりつけ薬局を推進するための指針として、厚生労働科学研究事業※により「薬局の求められる機能とあるべき姿」がとりまとめられた（平成26年1月 日本医療薬学会公表）。

※「薬剤師が担うチーム医療と地域医療の調査とアウトカムの評価研究」（主任研究者：安原真人・東京医科歯科大学医学部附属病院薬剤部教授、一般社団法人日本医療薬学会会頭）

• 主な内容

【薬局・薬剤師に求められる機能に関する基本的な考え方】

1. 最適な薬物療法を提供する**医療の担い手**としての役割が期待
2. 医療の質の確保・向上や医療安全の確保の観点から、**医療機関等と連携してチーム医療**を積極的に取り組むことが求められる
3. 在宅医療において、**地域における医薬品等の供給体制や適切な服薬支援を行う体制**の確保・充実に取り組むべき
4. 医薬品や医療・衛生材料等の提供拠点としての役割に留まらず、**後発医薬品の使用促進や残薬解消といった医療の効率化**について、より積極的な関与も求められる
5. セルフメディケーションの推進のために、**地域に密着した健康情報の拠点**として積極的な役割を発揮すべき
6. 患者の治療歴のみならず、**生活習慣も踏まえた全般的な薬学的管理**に責任を持つべき
⇒ 基本的な考え方の下、薬局が備えるべき基本的体制及び薬学的管理の在り方について、確保すべき又は取り組むべき項目を示している。

※ 一般社団法人日本医療薬学会 「薬局の求められる機能とあるべき姿」の公表について

<http://www.jsphcs.jp/cont/14/0107-1.html>

「薬局の求められるべき機能とあるべき姿」における主な機能

求められる機能

【許可】

- 保険薬局や各種公費負担制度の指定
- 麻薬の小売
- 医療機器の販売

【開局時間】

- 日中8時間以上
- 休日や夜間対応

【薬学的管理】

- 残薬確認、残薬解消の取組
- 定期的な服薬状況、副作用等の確認

【在宅医療】

- 在宅での薬剤管理指導
- 多職種との情報共有、連携

【構造・設備】

- 広い調剤室、待合室
- バリアフリー
- プライバシー配慮
- 全面禁煙
- 無菌調剤設備

【備蓄・供給】

- 地域ニーズに応じた医薬品の供給(一般用・要指導医薬品含む)
- 医療、衛生材料の販売
- 介護用品の販売

【後発品】

- 数量シェア6割以上

【健康情報拠点】

- 健康や介護、生活習慣全般等に関する相談応需

【地域医療】

- 地域保健医療への貢献
- 災害時の医薬品の供給拠点機能
- 不要医薬品、使用済み注射針の回収

【人的機能】

- 生涯学習への積極的な取組



【その他】

- 副作用等の報告

「薬局の求められるべき機能とあるべき姿」の公表について(平成26年1月21日薬食総発0121第1号)

7

本日の内容

1. 昨年度までの経過について
2. 薬局における健康情報の提供状況等に関する実態調査について
3. 健康情報拠点として薬局に求められる機能について

薬剤師が担うチーム医療と地域医療の調査とアウトカムの評価研究 在宅医療・かかりつけ薬局推進班の概要

平成25年度厚生労働科学研究費補助金
医薬品・医療機器等レギュラトリーサイエンス研究事業

研究代表者：東京医科歯科大学大学院医歯学総合研究科 安原真人
在宅医療・かかりつけ薬局推進班分担研究者：

北里大学 薬学部 吉山友二（初年度）
名城大学 薬学部 長谷川洋一（2年度）

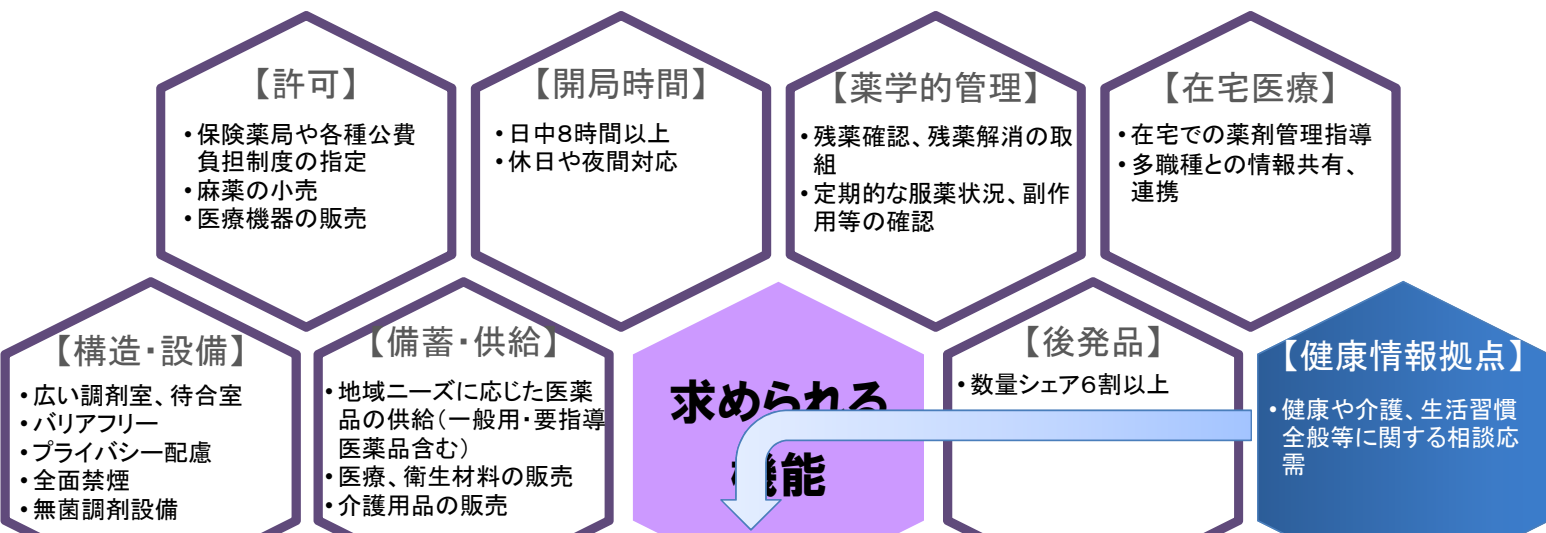
研究目的：地域において在宅医療を提供する薬局薬剤師が、地域医療・地域保健に積極的に関与するための基準を策定することで、薬局が在宅医療を推進しつつ、本来のかかりつけ薬局機能を十分発揮できるようにすることである。

初年度の事業：「かかりつけ薬局機能をもった在宅医療提供薬局」を推進するための新たな基準を作成し、その妥当性を評価することとし、平成26年1月に「薬局の求められる機能とあるべき姿」の報告書を公表した。

2年度の事業：「薬局の求められる機能とあるべき姿」の報告書に基づき、在宅医療を含めた地域包括ケアシステムの中でセルフメディケーションの推進に資する薬局のあり方について、調査検討する。

9

「薬局の求められるべき機能とあるべき姿」における主な機能



健康情報拠点として考えられる役割

- ・地域住民が日常的に気軽に立ち寄ることができるという薬局の特性を活かし、薬局利用者本人又はその家族等からの健康や介護等に関する相談を受け、解決策の提案や適当な行政・関係機関（当該地域の市役所等の相談窓口、医療機関、保健所、福祉事務所、地域包括支援センター等）への**連絡・紹介**を行っていること。
- ・栄養・食生活、身体活動・運動、休養、こころの健康づくり、飲酒、喫煙など**生活習慣全般に係る相談**についても応需・対応し、地域住民の生活習慣の改善、疾病の予防に資する取組みを行っていること。

薬局における健康情報提供状況等に関する実態調査

○ 本来あるべき「かかりつけ薬局機能をもった健康情報拠点薬局」を推進するために、薬局における健康情報等の提供状況や、要指導医薬品、一般用医薬品等の取扱い状況等を把握することを目的として調査(平成26年度調査)を実施した。

概要

○ 調査対象: 公益社団法人 日本薬剤師会 セルフメディケーション・サポート薬局※(969薬局) 及び保険調剤・サポート薬局※(1,023薬局)の計1,982薬局を母集団として、計1,000薬局(セルフメディケーション・サポート薬局500薬局、保険薬局500薬局)を無作為抽出して調査対象とした。

○ 調査方法: 対象薬局の開設者又は管理薬剤師による自記式アンケート調査
郵送発送・FAX発送

○ 調査基準日: 平成26年7月1日(火)

○ 実施時期: 平成26年7月31日(木)～9月3日(水)

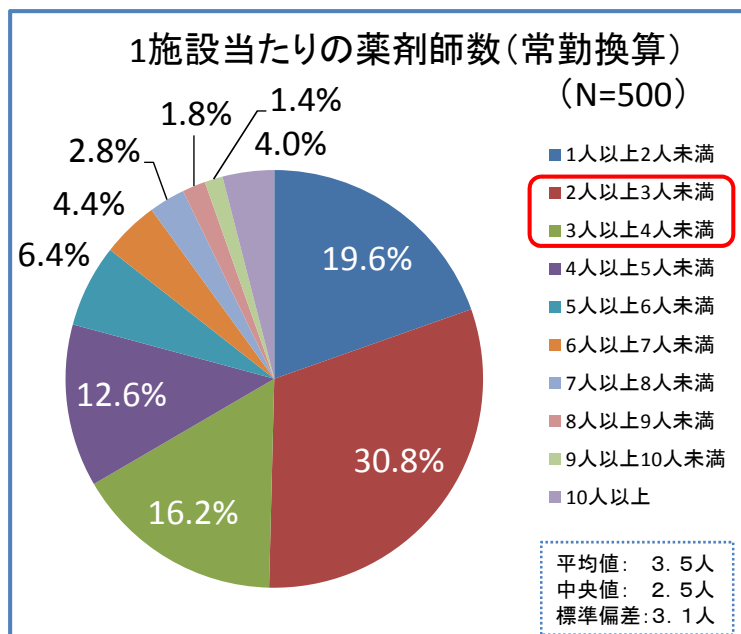
○ 回収状況

セルフメディケーションサポート薬局	回収率44.6%(223/500)
保険調剤サポート薬局	回収率55.4%(277/500)
合計	回収率50.0%(500/1,000)

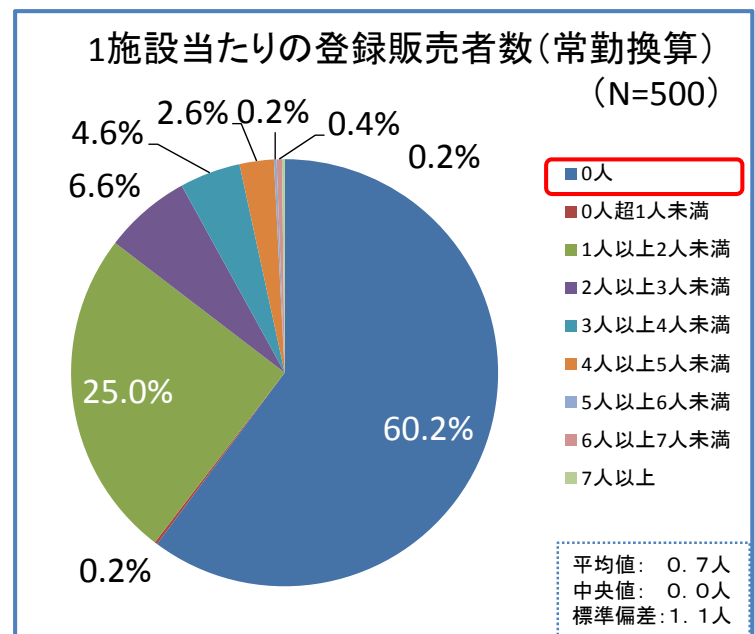
※ 保険調剤・サポート薬局、セルフメディケーション・サポート薬局とは、それぞれ「保険調剤」「セルフメディケーション」に関する日本薬剤師会の調査に協力する薬局として都道府県薬剤師会から推薦された薬局。

11

調査結果の概要(従業者数—その1—)

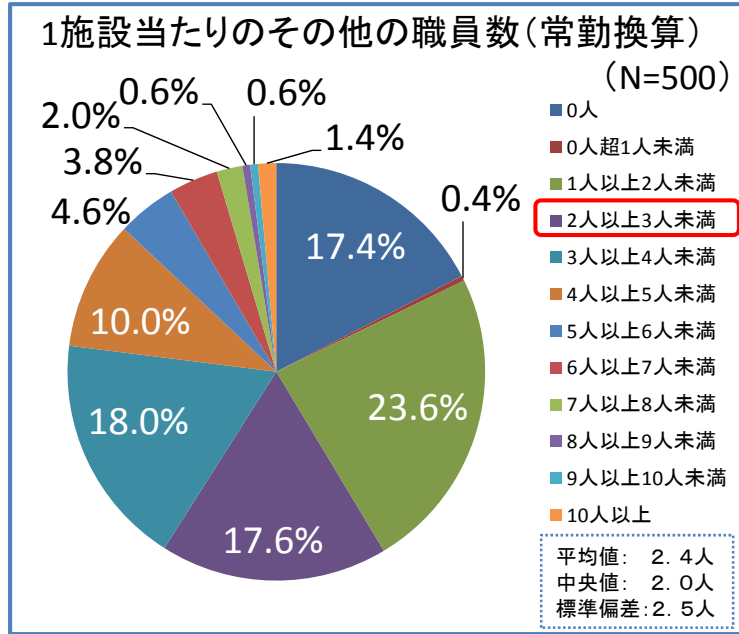


注: 平成26年7月1日現在



注: 平成26年7月1日現在

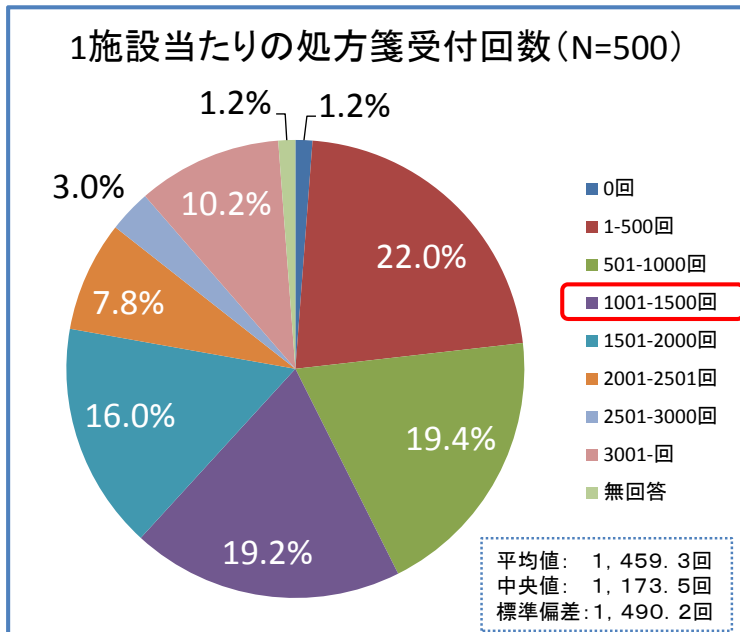
調査結果の概要(従業者数—その2—)



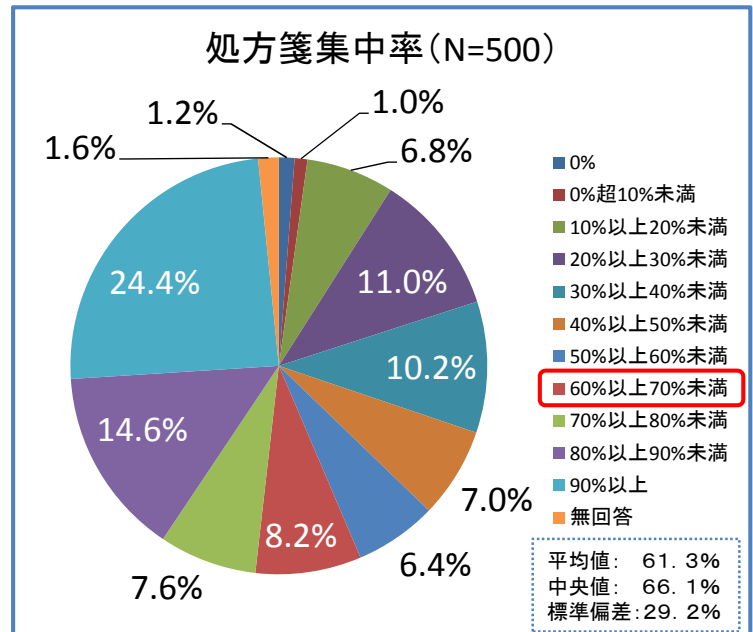
注:平成26年7月1日現在

13

調査結果の概要(処方箋受付回数、集中率)



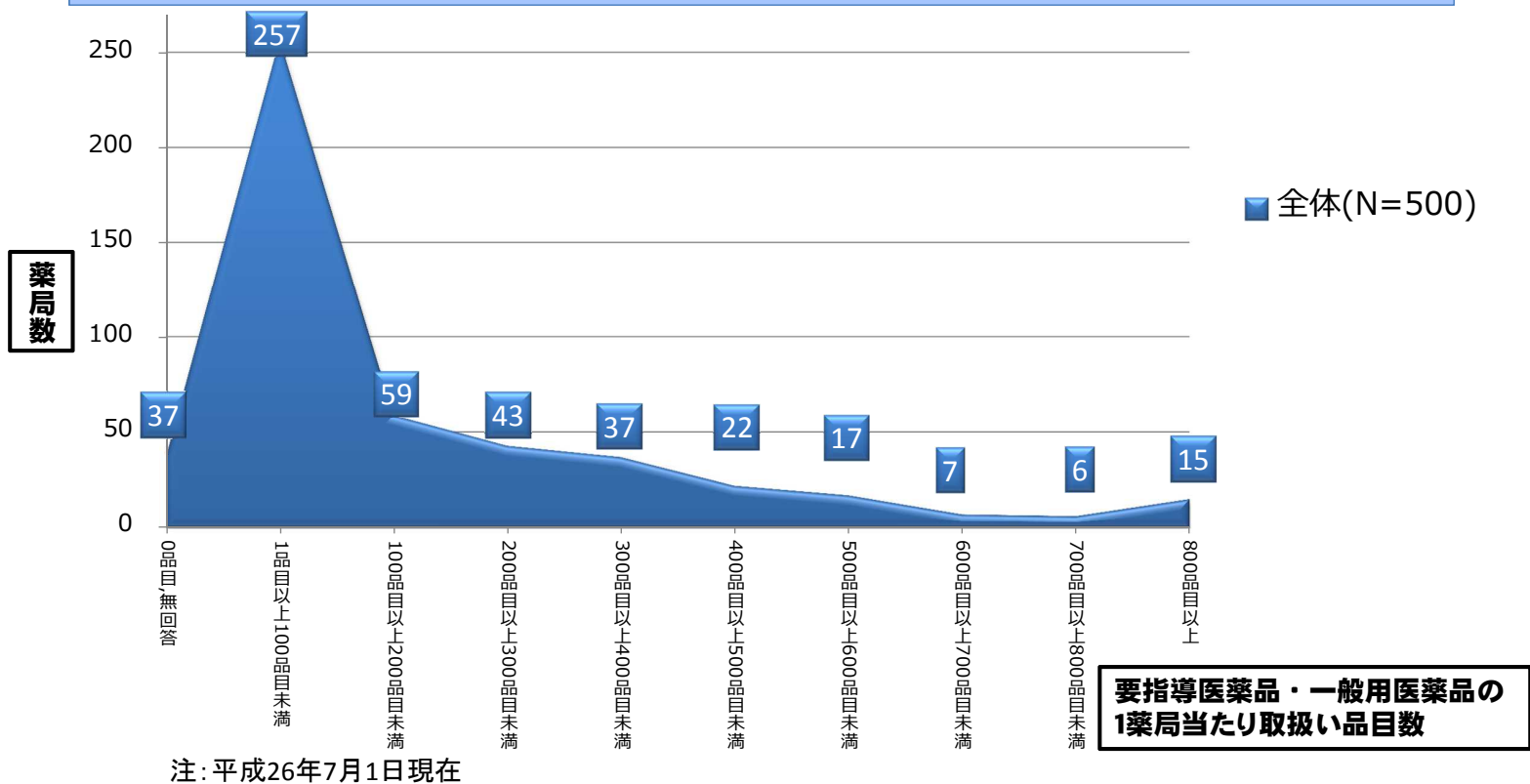
注:平成26年6月1か月間



注:平成26年6月1か月間

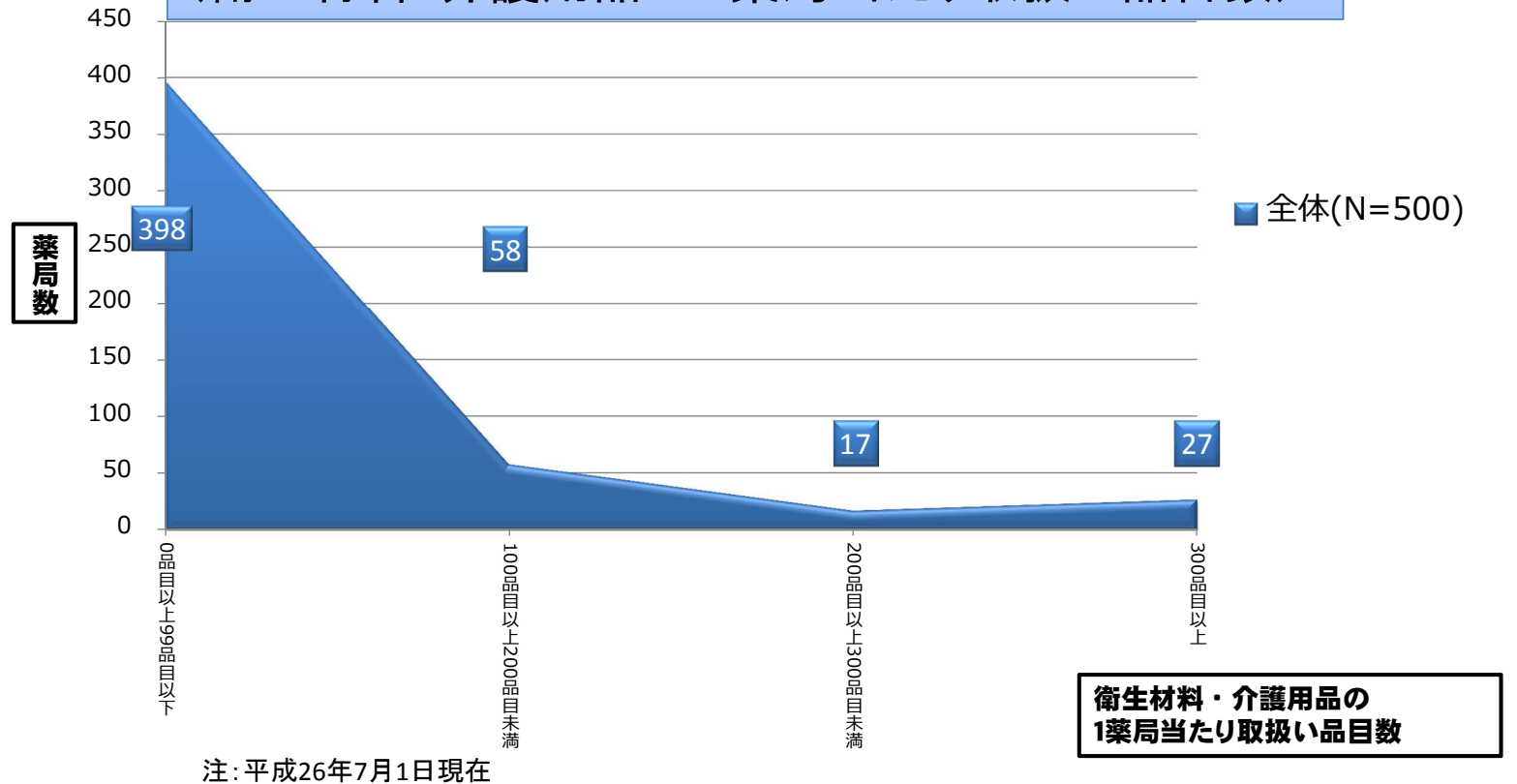
14

調査結果の概要 (要指導医薬品・一般用医薬品の1薬局当たり取扱い品目数)



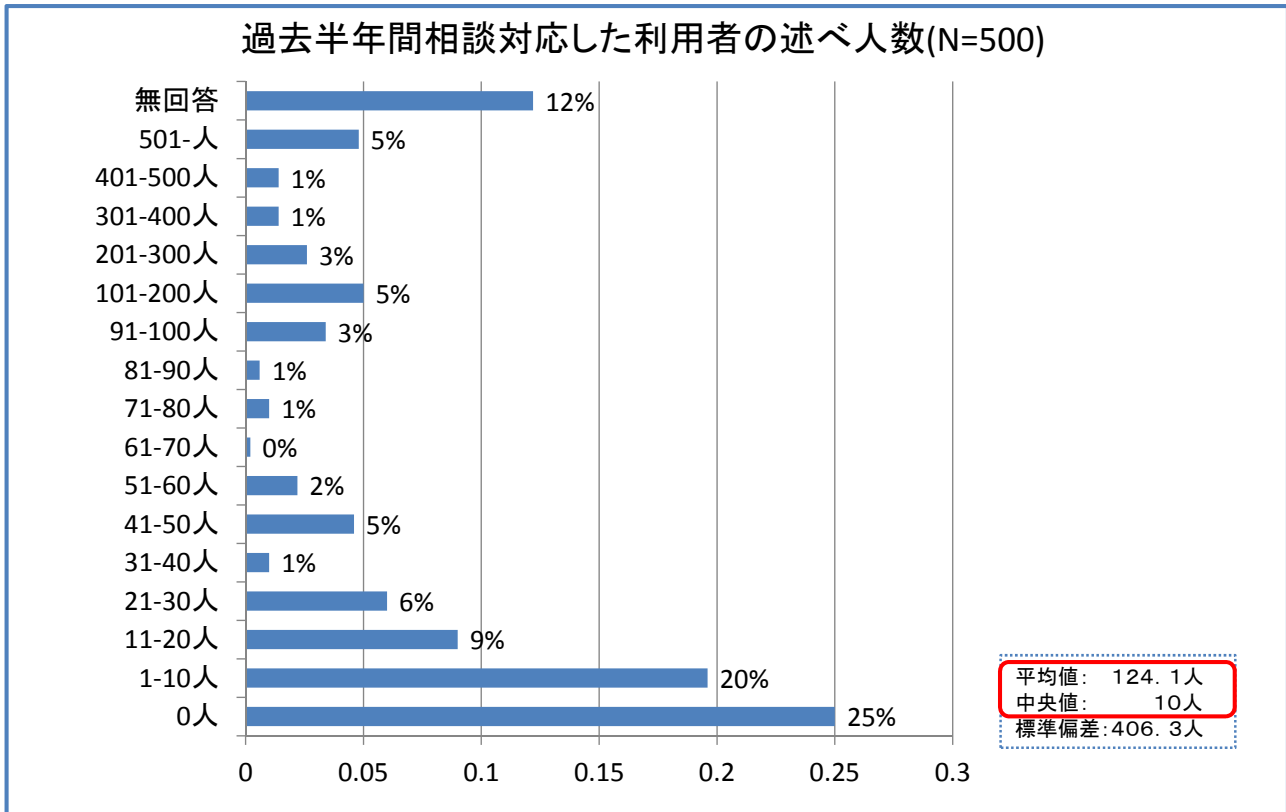
◆ 要指導医薬品・一般用医薬品の平均値は173品目、中央値72品目である。

調査結果の概要 (衛生材料・介護用品の1薬局当たり取扱い品目数)



◆ 衛生材料・介護用品の平均値は74品目、中央値33品目である。

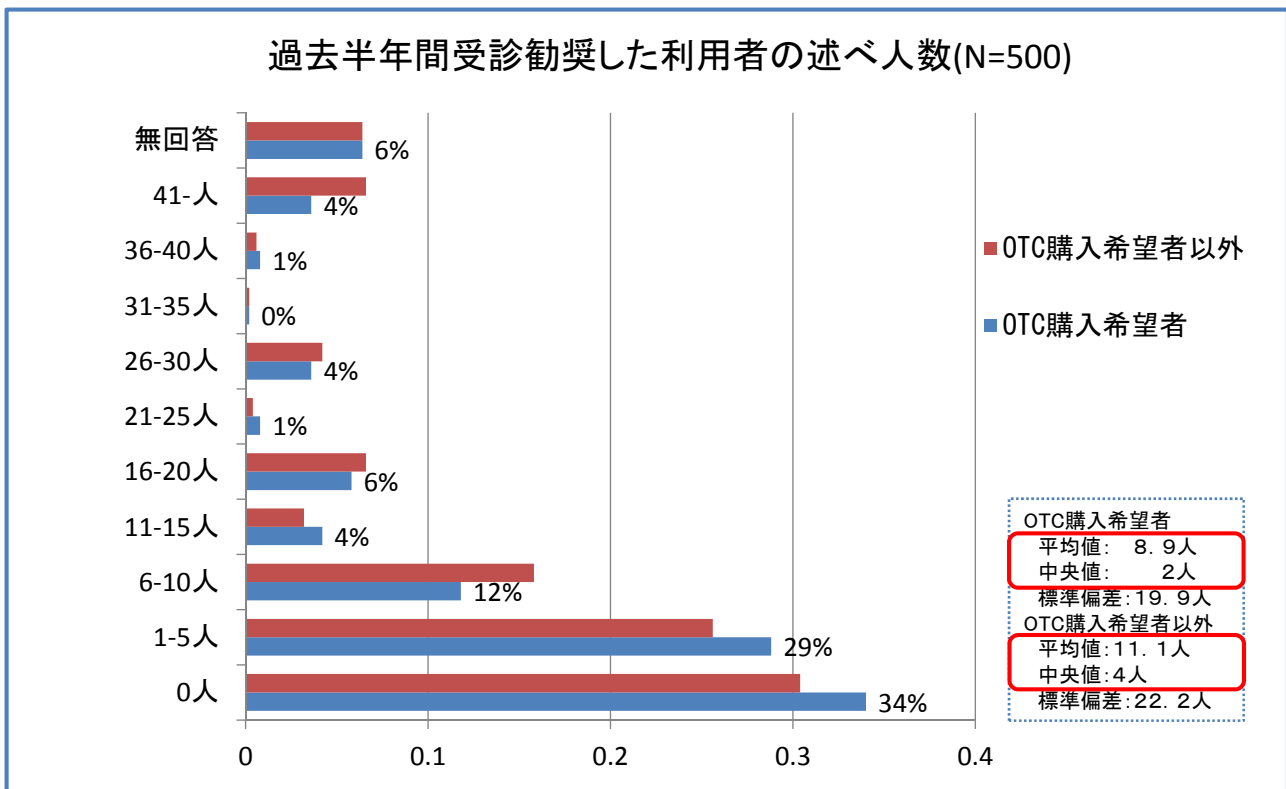
調査結果の概要(相談対応の実績)



注:平成26年7月1日現在

17

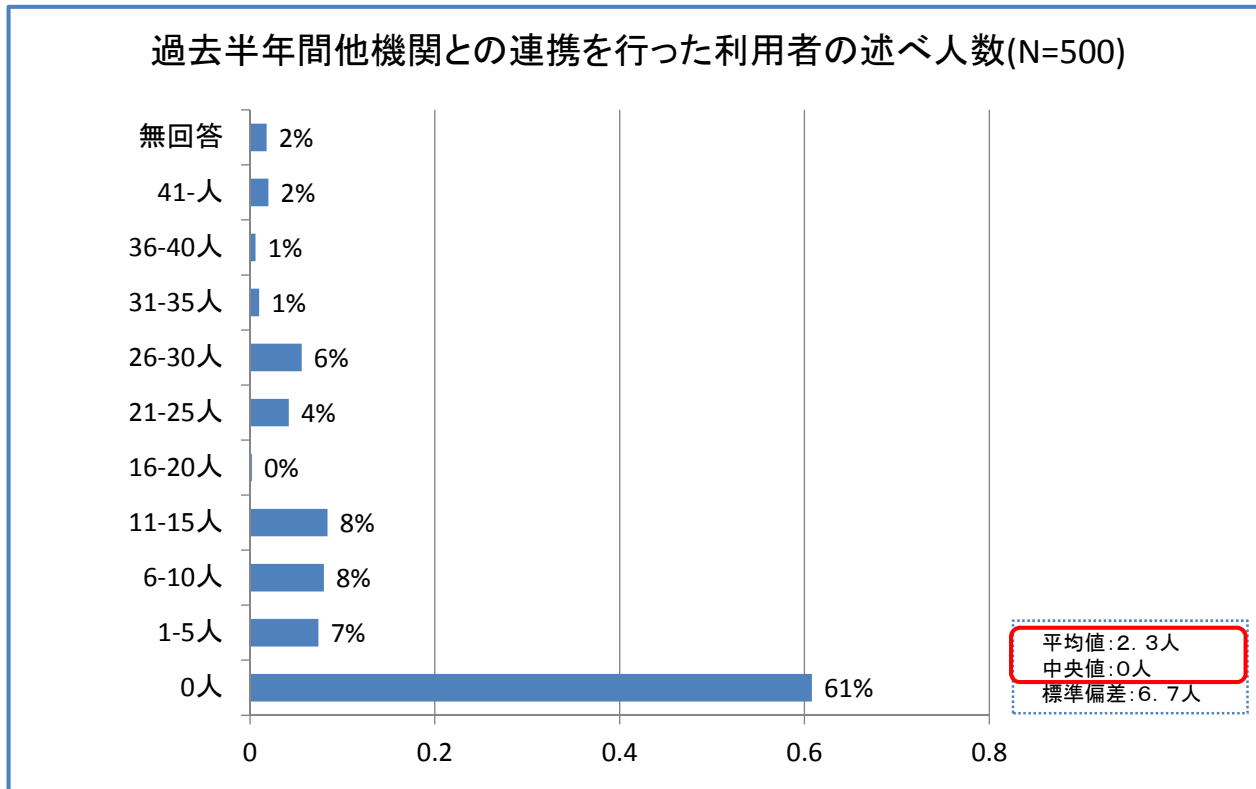
調査結果の概要(受診勧奨の実績)



注:平成26年7月1日現在

18

調査結果の概要(他機関との連携の実績)



注: 平成26年7月1日現在

19

本日の内容

1. 昨年度までの経過について
2. 薬局における健康情報の提供状況等に関する実態調査について
3. 健康情報拠点として薬局に求められる機能について

20

健康情報拠点薬局の位置付け、考え方(案)

○ 「健康情報拠点薬局」を考えるにあたっては、その位置付けや考え方を明確にする必要がある。

○ その位置付けや考え方には、「薬局の現状の問題点」や「日本再興戦略」における記載が参考になるのではないか。

【薬局の現状の問題点】

- ・ **一般用医薬品を取り扱わない薬局が多数**
- ・ **薬局の業務も処方箋に基づく調剤業務が殆ど**
- ・ 地域の健康づくりの拠点になるような取組が不十分
- ・ 医薬分業についての十分な理解が得られていない

【日本再興戦略】(平成25年6月14日 閣議決定)【抜粋】

- ・ 予防・健康管理の推進に関する新たな仕組みづくり
「薬局を**地域に密着した健康情報の拠点**として、**一般用医薬品等の適正な使用に関する助言や健康に関する相談、情報提供を行う**等、セルフメディケーションの推進のために薬局・薬剤師の活用を促進する。」



- ・ 調剤による薬剤の提供はもとより、要指導医薬品、一般用医薬品等の適正な使用に関する助言や健康に関する相談、情報提供を積極的に行う。
- ・ かかりつけ医を中心とした多職種連携の中で地域に密着した健康情報の拠点としての機能を果たす。
- ・ 国民の病気の予防や健康づくりに貢献している。

21

「薬局の求められるべき機能とあるべき姿」における主な機能

【許可】

- ・ 保険薬局や各種公費負担制度の指定
- ・ 麻薬の小売
- ・ 医療機器の販売

【開局時間】

- ・ 日中8時間以上
- ・ 休日や夜間対応

【薬学的管理】

- ・ 残薬確認、残薬解消の取組
- ・ 定期的な服薬状況、副作用等の確認

【在宅医療】

- ・ 在宅での薬剤管理指導
- ・ 多職種との情報共有、連携

【構造・設備】

- ・ 広い調剤室、待合室
- ・ バリアフリー
- ・ プライバシー配慮
- ・ 全面禁煙
- ・ 無菌調剤設備

【備蓄・供給】

- ・ 地域ニーズに応じた医薬品の供給(一般用・要指導医薬品含む)
- ・ 医療、衛生材料の販売
- ・ 介護用品の販売

求められる機能

【後発品】

- ・ 数量シェア6割以上

【健康情報拠点】

- ・ 健康や介護、生活習慣全般等に関する相談応需

【地域医療】

- ・ 地域保健医療への貢献
- ・ 災害時の医薬品の供給拠点機能
- ・ 不要医薬品、使用済み注射針の回収

【人的機能】

- ・ 生涯学習への積極的な取組

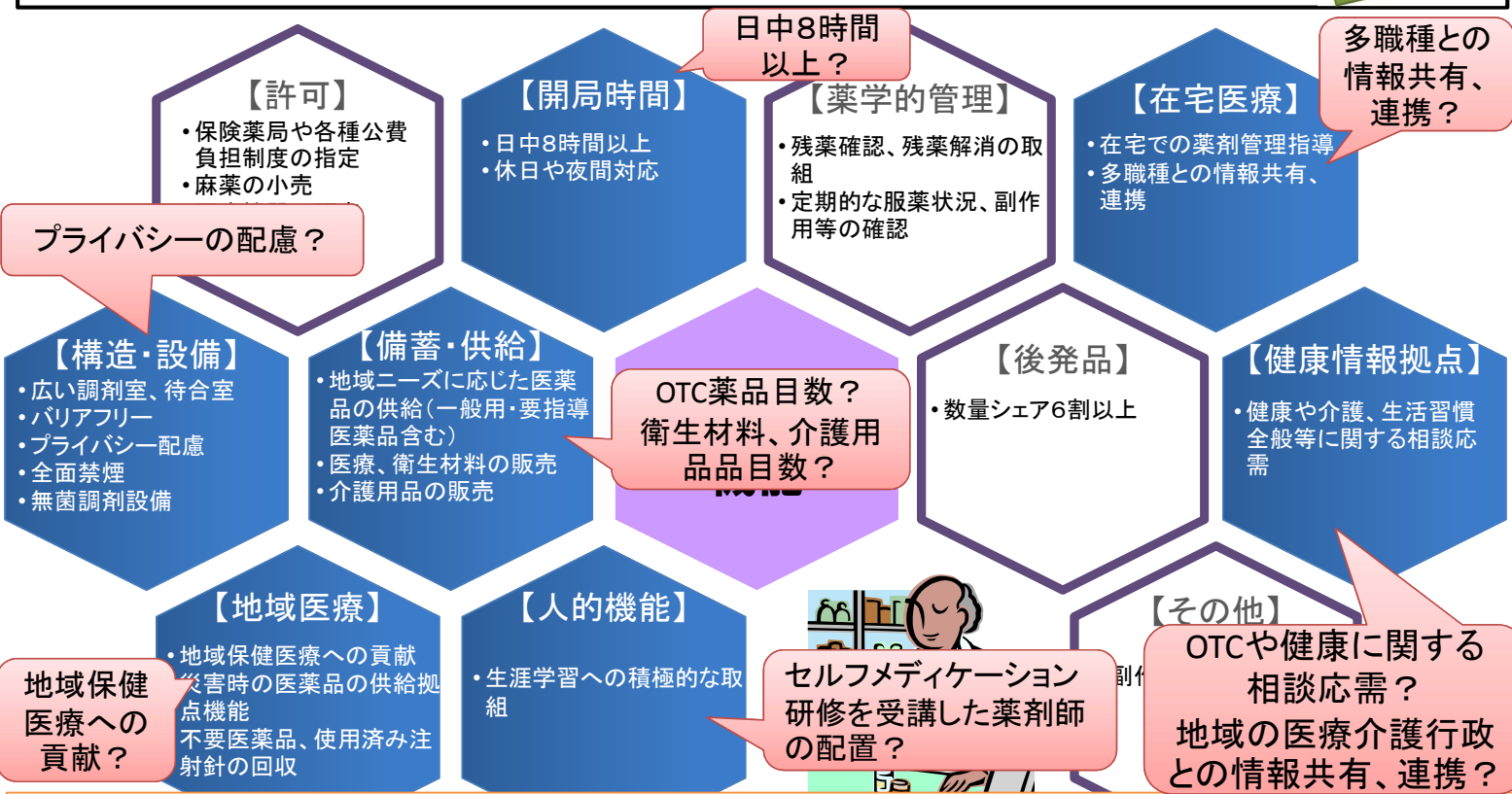


【その他】

- ・ 副作用等の報告

健康情報拠点薬局に求められる主な機能

(案)



プライバシーの配慮?

日中8時間以上?

多職種との情報共有、連携?

OTC薬品目数?
衛生材料、介護用品目数?

地域保健医療への貢献?

セルフメディケーション研修を受講した薬剤師の配置?

OTCや健康に関する相談応需? 地域の医療介護行政との情報共有、連携?

「健康情報拠点薬局」では、「あるべき姿」に比べて、医療面での取組を基本としつつ、地域住民の健康保持・増進により重点を置くものとし、果たすべき機能も、医薬品の適正使用・健康相談応需やかかりつけ医を中心とした多職種連携に資するものとして位置付けるべきではないか。